

飼料イネロールベールは間隔を空けて配置すれば ネズミ食害を軽減できる

飼料イネロールベールサイレージは、貯蔵中にロールベール内の粉を狙うネズミによってラップフィルムが損傷されると容易に変敗してしまいます。そこで飼料イネロールベールを安定的に貯蔵するため、殺鼠剤などの毒性物質に頼ることなく低コストでネズミ食害を軽減する技術を開発しました。

☆ 技術の概要

1. ロールベールの間隔を空けて隠れ場所を作らないように配置（広々配置）すると、ネズミの捕食者に対する警戒感を高めるため、飼料イネロールベールの食害を軽減できます。
2. 広々配置のロールベール間隔は 50 cm（小型のミニロールは 30 cm）以上とし、見通しを確保します。この間隔を空けるためには、作業時間と設置面積が大幅に増加（面積は 1m 径ロールで 1.5 倍以上、ミニロールでは 2.5 倍以上）しますが、人がロールベール間を見回ることができ、フィルム破損等への対応も行いやすくなります。
3. 野ネズミ類については、編目 1 cm 程度の金網（線径 1 mm 程度のビニール被覆亀甲金網が柔らかくラップを痛めにくい。参考価格 700 円/m²）を下に敷いて貯蔵すれば被害を軽減できます。



図1 広々配置の様子

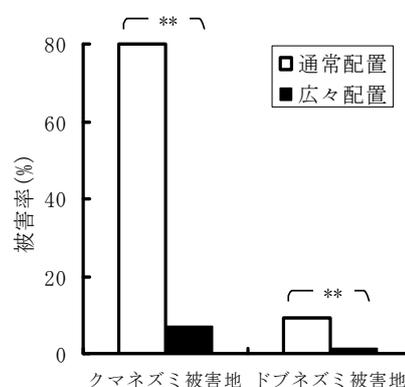


図2 家ネズミに対する広々配置の効果

☆ 活用面での留意点

1. 貯蔵スペースが十分に確保できる条件で、ネズミ食害による損耗率低下が期待できます。
2. 鳥害と防草対策が必要です。
3. 積雪地帯において、ロールベール間に雪のブリッジが架かるような条件下では効果が劣ります。また、ロールベール下にパレット、スノコやタイヤ等を敷くとネズミの隠れ場所を作ることになるので避けるようにします。
4. 詳細は東北農研・東北飼料イネ研究チーム(電話 019-643-3411)へお問い合わせ下さい。

(中央農業総合研究センター 研究管理監 寺島一男)